山梨県北巨摩郡白州町

西之久保遺跡

県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1998

白州町教育委員会
峡北土地改良事務所

山梨県北巨摩郡白州町

西之久保遺跡

県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1998

白州町教育委員会
峡北土地改良事務所

序

この報告書は、平成６年度県営圃場整備事業に伴い、発掘調査された西之久保遺跡の調査結果をまとめたものであります。

白州町には、縄文時代から古代、中世までの各時代にわたり、人々の生活の跡を語る埋蔵文化財包蔵地が数多く分布し、各遺跡からは、それぞれの時代の土器類等が発見されています。特に、白須・鳥原・横手地区等の広い段丘面には、大規模な遺跡の存在が知られています。

全町を対象とした水田の圃場整備事業は、昭和58年度から開始され、その間には昭和59年の根古屋遺跡の発掘をはじめ、数カ所の発掘調査が行われました。

西之久保遺跡は、釜無川右岸の高位段丘面上、白州町横手字西之久保地内に所在し、約3,600㎡の範囲にわたり発掘調査が行われました。

その結果、縄文時代前期と弥生時代の竪穴住居址各１軒、平安時代の住居址３軒、中世の土坑群や地下式坑等が発見されました。

最後に、この事業にご協力を賜りました峡北土地改良事務所・山梨県教育庁学術文化財課等関係機関の皆様をはじめ、直接にご協力をいただきました横手区の皆様方に厚くお礼申し上げます。

平成10年３月

白州町教育委員会

教育長　渡　辺　哲　郎

例　　言

1　本書は、平成６年度県営圃場整備事業に伴って発掘調査した、山梨県北巨摩郡白州町横手字西之久保に所在する西之久保（にしのくぼ）遺跡の調査報告書である。

2　発掘調査は、峡北土地改良事務所との負担協定による委託と文化庁・山梨県から補助金を受けて白州町教育委員会が実施した。

3　遺物の拓本・実測は、込山、中山（陽）、豊浦が行い、写真撮影は杉本が行った。

4　本文の執筆及び編集は、杉本が行った。

5　本調査の出土品・諸記録は、白州町教育委員会が保管している。

6　本調査にあたり、峡北土地改良事務所・山梨県教育委員会学術文化財課・北巨摩市町村文化財担当者会並びに、地元の横手区の皆様にご指導とご協力をいただいた。心から謝意を表する次第です。

調査組織

調査主体　白州町教育委員会 教育長　大久保勝雄（～平成６年９月）
〃　向井　敏道（～平成８年９月）
〃　渡辺　哲郎（平成８年10月～）

事務局　堀内　譲　教育課長（～平成７年３月）
山本賢二　〃　（～平成９年３月）
有賀祥司　〃　（平成９年４月～）

調査担当者　杉本　充

調査参加者　川崎東洋雄、込山裕代、中山陽子、渡辺勝夫、大久保鶴子、大久保照子、桜井稲子、山本静枝、中山恵子、豊浦和子

目　　次

序
例　言・調査組織
目　次・凡　例
Ⅰ章　調 査 状 況……1
　1節　調査に至る経緯……1
　2節　調査経過……1
Ⅱ章　遺跡の位置と概観……2
　1節　位　置……2
　2節　概　観……5
Ⅲ章　遺構と遺物……6
　1節　竪穴住居址……6
　2節　土　坑……7
　3節　地下式坑……7
　4節　竪穴状遺構……7
　5節　溝状遺構……8
　6節　その他の遺構……8
Ⅳ章　ま　と　め……11
付編　西之久保遺跡　リン分析報告……パリノ・サーヴェイ株式会社　29
図　版

挿図目次

第1図　遺跡位置図 ……3
第2図　調査区位置図 ……4
第3図　周辺の遺跡 ……5
第4図　遺構配置図 ……12
第5図　1号住居址 ……13
第6図　2号住居址 ……13
第7図　3号住居址 ……14
第8図　4号住居址 ……14
第9図　サンプル採取土坑 ……15
第10図　地下式坑 ……16
第11図　C－2区Pit－1 ……16
第12図　集石遺構 ……16
第13図　2号住居址出土遺物 ……17
第14図　3号住居址出土遺物① ……18
第15図　3号住居址出土遺物② ……19
第16図　4号住居址出土遺物① ……20

第17図　４号住居址出土遺物②……21
第18図　Ｃ－２区Ｐｉｔ－１出土遺物……22
第19図　その他の出土遺物……23

図版目次

図版１　全　景
図版２　近　景
図版３　１・２号住居址
図版４　２号住居址
図版５　３号住居址
図版６　４号住居址
図版７　４号住居址
図版８　33・37・38・39・54号土坑
図版９　地下式坑
図版10　３・４竪穴状遺構
図版11　１号溝状遺構
図版12　Ｃ－２区Ｐｉｔ－１出土遺物
図版13　住居址出土遺物①
図版14　住居址出土遺物②
図版15　Ｃ－２区Ｐｉｔ－１出土遺物
図版16　その他の出土遺物

凡　　例

1，黒色処理された坏の内面は、スクリーントーンをかけてある。
2，陶器の断面にはスクリーントーンをかけてある。
3，出土遺物一覧表の法量は、上から口径・底径・器高の順で記載し、単位はcmである。
4，図版の遺物については、出土遺物一覧表の番号と一致する。
5，写真図版の遺物については、図版の番号と一致する。縮尺はＣ－２区Ｐｉｔ出土品を除き、土器・甕等１／３、装飾品・小型石器・鉄器１／１である。

Ⅰ章　調査状況

1節　調査に至る経緯

平成6年度着工予定の山梨県北巨摩郡白州町横手地区県営圃場整備事業に伴い、平成5年10月に実施した埋蔵文化財確認調査により、西之久保遺跡が新たに発見された。

確認調査は、県営圃場整備事業予定区域5haを対象として、幅2m・長さ10m程の試掘坑を任意に設定し、重機により耕作土及び水田床土を排土した後、人力により地山まで掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認する方法で行った。

その結果、弥生時代の竪穴住居址、平安時代の土器片などが検出され、面積4,000m²程の弥生時代と平安時代の集落址であろうと推定され、町教育委員会が主体となり平成6年度に本調査を行った。

その後、平成9年度に白州町地内の県営圃場整備事業の終了に伴い、事業主体である峡北土地改良事務所と町とで整理調査の負担協定を締結し、本報告書刊行の運びとなった。

2節　調査経過

発掘調査は、平成6年5月30日から開始し、同年7月29日に現地調査を終了した。その後、報告書までの整理作業が完了したのは、平成10年3月であった。

調査方法は、遺物包含層がみられなかったため重機で遺構検出面まで掘り下げた。その結果、縄文時代前期と弥生時代の竪穴住居址各1軒、平安時代の竪穴住居址3軒、大部分が中世に属すると思われる土坑56基・溝状遺構5条・竪穴状遺構4基・地下式坑1基等が発見された。遺構検出面は、大半が「ローム」層であった。

調査区は、試掘調査により約3,600m²の範囲（第2図）とし、グリッドは、10m四方で公共座標軸に合わせて設定した。（A－1杭が、第Ⅷ系座標X＝-23060.000　Y＝-16300.000にあたる）基準点・グリッド杭の設置と遺構平面図の作成は、測量会社に委託して行った。遺構平面図は、遺構完掘後に写真測量により作成した。

調査終了後に、土坑内の覆土のリン酸分析をパリノ・サーヴェイ㈱に委託して行い、結果を付編として本書に掲載した。

II章　遺跡の位置と概観

1節　位　　置

西之久保遺跡は、山梨県北巨摩郡白州町横手字西之久保2,407番地他に所在する（第1図）。

本遺跡の存する横手地区は、明石山脈の北部、甲斐駒ヶ岳（2,966m）の前山群を構成する巨摩山地の一つ黒戸山（2,254m）の東麓に位置し、中山（887m）に隔てられるが3km程東側に流れる釜無川が形成した河岸段丘高位面を基盤に立地している。また、釜無川の支流である尾白川と大武川に南北を挟まれている。（第2図）

この横手地区には、黒戸山から3本の尾根筋がのびており、その延長上に3つの遺跡群を形成している。（第3図）　3つの遺跡群は、南北に500～600m離れて分布し、縄文時代（前・中期）・平安時代・中世を主体としている。町内の他の地区と比較して、縄文時代前期の遺跡が多く分布している。

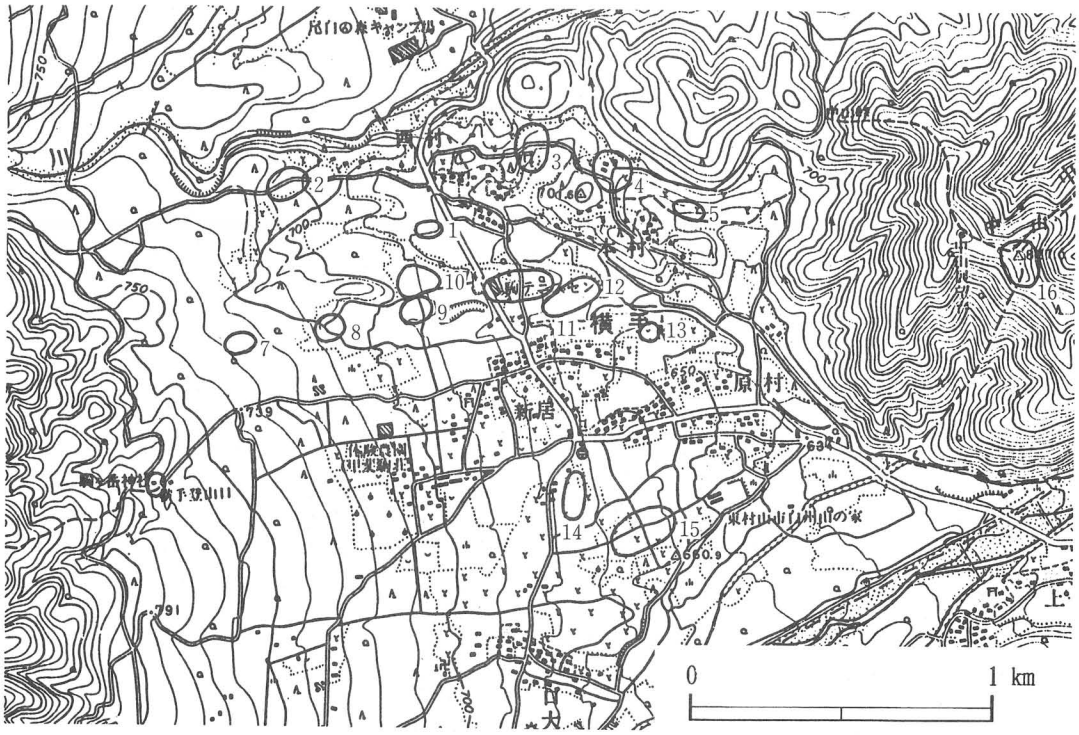
本址を含む北の遺跡群は、尾白川の川沿いから中山の南東斜面にかけて分布するもので、西から縄文時代中期から後期の集落跡と見られる宮沢遺跡（第3図－2）、縄文時代前期・平安時代・中世の本村耕地1遺跡（3－3）、平安時代・中世の本村耕地2遺跡（3－4）、中世の大之田遺跡（3－5）がある。本村耕地1遺跡は、南東の周縁部分（2,400m²）が県営圃場整備事業に伴い平成7年度に発掘調査が行われ、地下式坑22基・土坑56基・竪穴状遺構等が検出されている。

中の遺跡群は、西から縄文時代中期・平安時代の駒ヶ岳神社境内遺跡（3－6）、縄文時代前期の上北田2遺跡（3－7）、縄文時代（前・中期）・平安時代・中世の集落跡である上北田3遺跡（3－8）、縄文時代前期・平安時代・中世の集落跡である新居道上遺跡（3－9）と上北田遺跡（3－10）、縄文時代中期の古御所遺跡（3－11）、縄文時代中期・古墳時代・平安時代・中世の古御所東遺跡（3－12）、平安時代・中世の新居遺跡（3－13）がある。

平成2～4年度において県営圃場整備事業に伴い、上記の内4遺跡の発掘調査が行われている。上北田3遺跡では5,119m²の調査区に平安時代の竪穴住居址3軒、中世の掘立柱建物址2棟、竪穴状遺構1基、土坑107基、配石遺構4基が検出され、試掘調査により縄文時代前期末葉の集落跡の存在が推定される北側5,000m²が盛土保存となっている。新居道上遺跡では6,027m²の調査区に、縄文時代前期前半の竪穴住居址1軒、平安時代の竪穴住居址7軒、掘立柱建物址8棟、土坑189基等が検出されている。上北田遺跡では9,500m²の調査区に、縄文時代前期前半の竪穴住居址22軒、平安時代の竪穴住居址3軒、掘立柱建物址2棟、土坑230基、溝状遺構1条等が検出されている。古御所東遺跡では6,800m²の調査区に、縄文時代中期の竪穴住居址1軒、古墳時代の竪穴住居址2軒、平安時代の竪穴住居址41軒、掘立柱建物址1棟、地下式坑2基、土坑80基、溝状遺構5条等が検出されている。

第１図　遺跡位置図（１／50,000）

第２図　調査区位置図（１／5,000）



第３図　周辺の遺跡（１／25,000）

南の遺跡群は、南側を低位段丘面との比高差10～15ｍ段丘崖に接する部分に分布するもので、縄文時代中期・平安時代の中原１遺跡（３－14）、縄文時代中期・中世の中原２遺跡（３－15）がある。

２節　概　　観

本調査では、平安時代の竪穴住居址３軒、縄文時代前期末葉の竪穴住居址１軒、弥生時代の竪穴住居址１軒、地下式坑１基、土坑53基、溝状遺構５条等が検出された。

３軒の平安時代の竪穴住居址は、西から東へ延びる尾根の南斜面に南北方向に５～10ｍ離れて検出されている。縄文時代と弥生時代の住居址は、全く重複して検出された。弥生時代の住居址は、水田の造成時に大部分が削平されていが町内では初めてのものであり、また縄文時代諸磯式期についても当町内において、住居址の発見は初めてのことであった。

土坑は、尾根の先端部を中心に分布している。遺構外出土品に、縄文時代早期と思われる土器片が数点ある。

Ⅲ章　遺構と遺物

1節　竪穴住居址

平安時代の3軒（1～3号住居址）と弥生時代と縄文時代の重複する1軒（4号住居址）が検出されている。

1号住居址（第5図）

調査区中央、C－5区に位置する。南側1/3が削平されているが、隅丸方形を呈し、4.5×(3.5)mを測る。カマドは礫が散在していた東辺南寄か東南隅と推定される。

遺物については少量の土師質土器などの細片と砥石1点のみである。

2号住居址（第6・13図）

調査区中央、D－6区に位置する。隅丸方形を呈し、4.5×4.2mを測る。床面中央部に硬化面があり、その下が掘り込まれていた。カマドは東南隅に礫を中心に構築されていた。

遺物については内面が黒色処理された坏1点の他甕が出土している。

3号住居址（第7・14・15図）

調査区南辺中央、E－7区に位置する。隅丸方形を呈し、3.2×3.1mを測る。床面中央部に、硬化面が認められた。カマドは東辺中央部で礫を中心に構築されていた。カマドの火床から数個体の甕の破片が検出されたが、一部はカマド袖部の補強材と推定された。

遺物は他に3点の墨書土器がある。

4号住居址（第8・16・17図）

調査区西端、D－10区に位置する。試掘調査時に、水田耕土直下で確認された。遺物の出土状況から、縄文時代前期末の住居址のやや北に重複して弥生時代の住居址が建てられていたと考えられ、隅丸長方形を呈し、4.7×3.7mを測る。縄文時代の住居址については径3,7m程の円形を呈すものと推定される。上部の弥生時代の住居址は北側の一部を残し大部分削平されているが、一辺が3.5mの隅丸方形か隅丸長方形を呈すものと推定される。

遺物については縄文時代の土器（17－9）が隣接する54号土坑出土のものと接合している。

2節　土　　坑（第9図・第1表）

56基が検出された。特に尾根上のC－8区の周辺に集中している。ほとんどが「円形土坑」であり、時期は中世に属すると思われる。「円形土坑」は平面形がほぼ正円形を呈し、径100～130cmのものが大半を占め一定の規格があったことが推定される。断面形はフラスコ状ないしは円筒状を呈する。深さについては10～110cmの範囲に際だった集中部分もなく規格性は認められない。壁面には、明瞭な工具痕（幅5～6cm）が残っている。覆土が細かなロームブロックが均一に混ざっていることから、掘られた直後に埋め戻されたと推定される。遺物はほとんど発見されない。「円形土坑」は町内の発掘調査により600基以上がこれまでに検出されているが、その用途等は遺物の出土もなく不明である。本址の調査においては人為的に埋め戻されていることから、「円形土坑」を墓坑と仮定して覆土のリン酸分析を試みた。調査方法としては土坑を十字に切り中心部と中心から縁までの中間で5ヵ所を10～15cm毎のレベルで1から3層、5～15点の覆土サンプルを採取した。サンプルは1点につき200g前後である。分析結果は付編として本書に掲載した。

3節　地下式坑（第10図）

1基が検出された。調査区中央、D－7区の南向きの斜面上に位置する。室部は斜面の等高線と平行して長い長方形を呈し天井部は全て崩落していた。斜面に直交する通路があり平面形はT字状を呈する。室部は3.5×1.9mを測り、通路は3.3m×0.9mを測る。壁面は最高で135cmが遺存していた。入口部分は削平が大きい為形状は不明である。遺物は出土していない。壁面ではオレンジ色のパミスが1m程堆積したいるのがみられ、床面は灰白色の粘土層を若干掘り抜いている。

4節　竪穴状遺構

4基検出された。覆土はロームブロックを均一に含む埋め戻したものであった。2～4号竪穴は竪穴住居址に近い形態を持ち、同様のものが次年度に調査された本村耕地1遺跡から良好な状態で検出されている。

1号竪穴状遺構

調査区中央東側、C－7区に位置する。楕円形を呈し、2.5×2.2mを測る。断面形は、すり鉢状を呈する。遺物の出土はなく、時期も不明である。

2号竪穴状遺構

調査区中央西側、D－4区に位置する。斜面の下側が削平されているが方形を呈し、3×(2.2)

mを測る。壁面がほぼ垂直に立ち上がり、また壁際にピットがあるなど竪穴住居址に近い形態を呈する。遺物の出土はなく、時期も不明である。

3・4号竪穴状遺構

調査区中央、C－6区に位置する。試掘調査の際、覆土の大部分がロームの為に発見が遅れ半分以上を破壊してしまった。3・4号遺構共に一辺3mの方形を呈し、2号竪穴と同様に竪穴住居址に近い形態を持つ。若干重複しているが新旧関係は不明である。遺物の出土はなく、時期も不明である。

5節　溝状遺構

5条検出された。4号溝を除き覆土下部は、白色砂が堆積していた。4号溝は、覆土がパミスを含むロームで近接する地下式坑との関連が考えられる。

A－5～6区とE－6～7区に溝状遺構の痕跡と思われる白色砂の堆積が若干みられた。

6節　その他の遺構（第11・12図）

C－2区Pit－1

重機による表土除去作業中に小皿の出土に伴いない検出された。調査区西端に位置する。小皿は検出面で5枚、その直下のピット中から4枚出土している。L字状を呈し、長軸45cm×短軸20～40cmを測り、深さは15cm程である。遺物は9枚の小皿のみである。何らかの祭祀に伴う遺構と思われる

集石遺構

1基が検出された。調査区東端、D－10区に位置する。径4～7cm程の礫が15個集中して検出された。礫の直下には楕円形の掘込みがある。掘込みは32×26cm、深さ17cmである。礫以外に遺物はみられなかった。

第Ｉ表　土坑一覧表

番号	平面形	規模 (cm)			覆土	備考
		検出面	深さ	底面		
1	円形	130 × 110	30	102 × 97	暗褐色土　ロームを含む	
2	円形	129 × 125	13	101 × 100	暗褐色土　ロームを含む	
3	円形	129 × 124	22	118 × 116	暗褐色土　ロームを含む	
4	円形	111 × 98	37	81 × 81	黒褐色土　ロームを若干含む	
5	円形	101 × 95	36	93 × 83	黒褐色土　ロームを若干含む	
6	円形	108 × 105	54	96 × 94	暗褐色土　ロームを含む	
7	円形	87 × 85	16	80 × 73	黒褐色土　ロームを含む	
8	円形	75 × 69	35	(28)× 22	黒褐色土　ロームを含む	
9	円形	106 × 96	56	75 × 53	暗褐色土　ロームを含む	
10	円形	98 × 94	36	78× 78	暗褐色土　ロームを含む	
11	円形	140 × 131	26	(118)× 108	黒褐色土　ロームを若干含む	
12	長方形	206 × 135	75	175 × 99	黒褐色土　ロームを若干含む	13 土を切る
13	円形	70 × 60	13	35 × 30	黒褐色土　ロームを含む	12 土に切られる
14	円形	175 × 117	16	163 × 92	黒褐色土　ロームを若干含む	
15	方形	171 × 110	14	160 × 85	黒褐色土　ロームを若干含む	
16	円形	168 × 147	15	142 × 133	黒褐色土　ロームを若干含む	
17	長方形	(110)× 95	20	(102)× 83	黒褐色土　ロームを若干含む	18 土に切られる
18	長方形	180 × 123	40	165 × 105	黒褐色土　ロームを若干含む	17 土を切る
19	円形	130 × 130	48	102 × 100	黒褐色土　ロームを若干含む	
20	長方形	223 ×(121)	46	192 × 106	黒褐色土　ロームを若干含む	21 土を切る
21	円形	165 ×(60)	24	148 ×(148)	暗褐色土　ロームを若干含む	20 土に切られる
22	不整形	254 ×(117)	53	147 × 58	暗褐色土　ロームを含む	倒木痕
23	円形	176 × 165	73	122 × 122	黒褐色土　ロームを若干含む	
24	円形	(135)× 139	41	123 × 125	黒褐色土　ロームを若干含む	25 土と重複
25	円形	(108)× 110	29	(95)× 97	黒褐色土　ロームを若干含む	24 土と重複
26	長方形	190 × 127	62	175 × 105	暗褐色土　ロームを含む	
27	円形	130 × 120	33	123 × 120	暗褐色土　ロームを含む	5 溝に切られる
28	円形	171 × 160	90	126 × 120	黒褐色土　ロームを多量含む	
29	長楕円	208 × 113	28	180 × 98	黒褐色土　ロームを多量含む	

番号	平面形	規模 (cm)			覆土	備考
		検出面	深さ	底面		
30	楕円形	196 ×(73)	23	182 ×(67)	黒褐色土　ロームを多量含む	
31	楕円形	180 × 125	25	165 × 106	黒褐色土　ロームを含む	
32	長方形	235 × 167	43	195 × 138	黒褐色土　ロームを若干含む	33 土と重複
33	円形	147 ×(109)	45	125 ×(102)	黒褐色土　ロームを含む(2層)	32 土と重複
34	円形	153 × 135	56	123 × 105	暗褐色土　ロームを若干含む	
35	楕円形	73 × 45	28	56 × 23		
36	円形	143 × 131	30	128 × 123	黒褐色土　ロームを若干含む	
37	円形	131 × 124	20	82 × 70	黒褐色土　ロームを若干含む	
38	円形	135 × 118	38	121 × 103	黒褐色土　ロームを若干含む	
39	長方形	174 × 90	55	160 × 70	暗褐色土　ロームを多量含む	
40	長方形	207 × 125	48	194 × 115	暗褐色土　ロームを多量含む	41,43 土と重複
41	楕円形	161 × 93	12	151 × 71	暗褐色土　ロームを含む	40,43 土と重複
42	円形	146 ×(67)	28	123 ×(50)	暗褐色土　ロームを若干含む	
43	円形	120 × 96	19	101 × 78	暗褐色土　ロームを多量含む	40,41 土と重複
44	円形	152 × 144	62	115 × 117	暗褐色土　ロームを含む	
45	円形	128 ×(120)	32	118 ×(120)	暗褐色土　ロームを含む	46,47 土と重複
46	円形	(112)×(47)	－	(86)×(33)	暗褐色土　ロームを若干含む	45,47 土と重複
47	円形	(128)×(119)	26	112 × 107	黒褐色土　ロームを若干含む	45,46 土と重複
48	円形	122 × 122	52	97 × 89	暗褐色土　ロームを若干含む	
49	円形	129 × 129	－	112 × 112	暗褐色土　ロームを若干含む	
50	方形	166 × 125	74	145 × 107	黒褐色土　ロームを若干含む	
51	方形	187 × 172	71	171 × 149	黒褐色土　ロームを若干含む	
52	円形	136 × 113	45	105 × 82	暗褐色土　ロームを若干含む	
53	円形	112 ×103	7	93 × 89	暗褐色土　ロームを含む	
54	円形	124 × 112	61	91 × 88	黒褐色土　(4層)	
55	不整形	161 × 97	29	140 × 67	暗褐色土　ロームを多量含む	倒木痕
56	不整形	150 × 142	14	131 × 126	暗褐色土　ロームを多量含む	倒木痕

Ⅳ章　ま　と　め

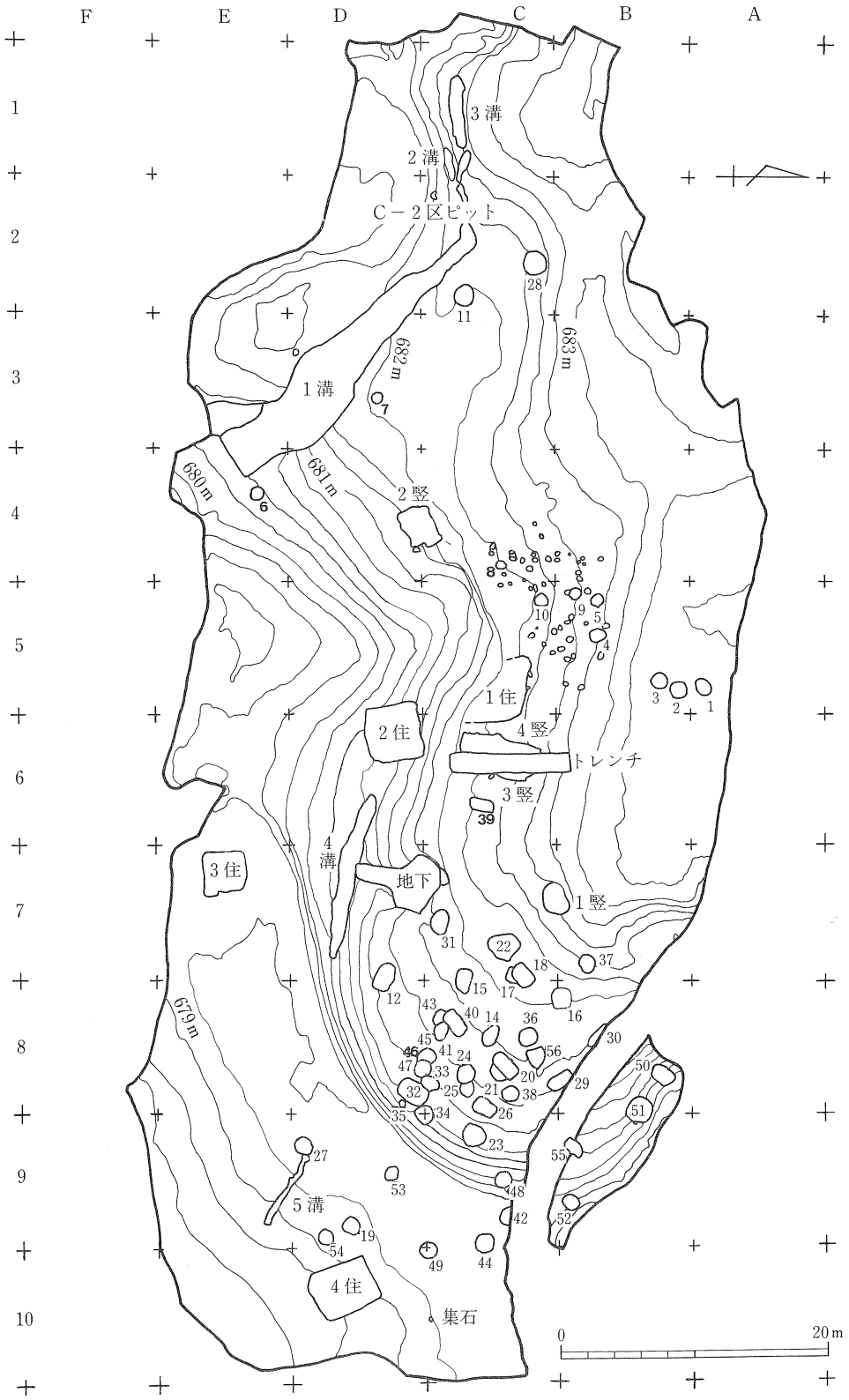
本遺跡の所在する横手地区では、平成２年度から県営圃場整備事業に伴い発掘調査が進められてきた。本遺跡の南側の尾根上には、上北田３遺跡、新居道上遺跡、上北田遺跡、古御所遺跡、古御所東遺跡といった遺跡群が切れ目なく続き、また遺跡の時代についても若干の時期を除き連続している。本地域一帯では縄文時代中期後半の遺跡が顕著でありこの横手地区で該期の遺跡がみられない、このことについては今後検討していきたい。

本址における「円形土坑」のリン酸分析については費用との兼ね合いからサンプルの採取について目の粗いところがあり、引き続き平成７年度に調査された本村耕地１遺跡からは、植物遺体との関連から炭素量も合わせて分析を行い資料の蓄積を図っているところである。

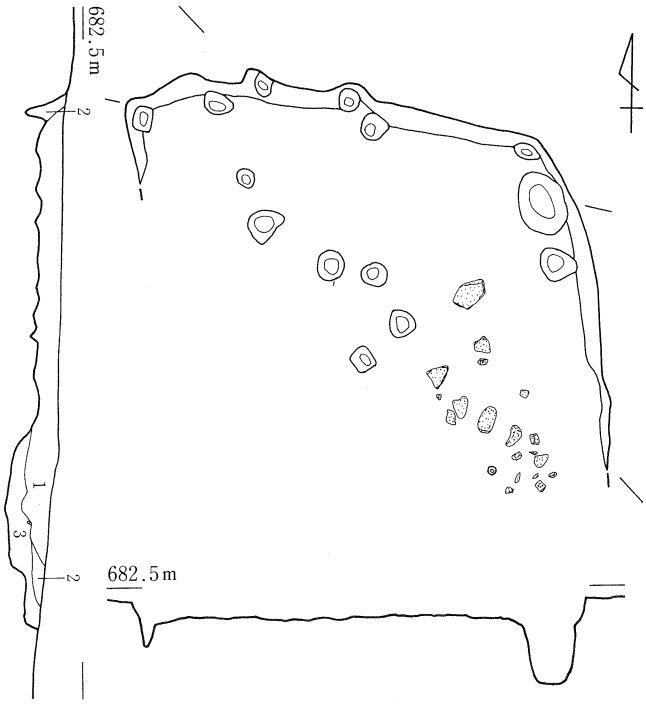
数年度に渡る調査に当たり地区の皆様から様々な協力があり、圃場整備事業についても無事終了を迎えた。調査の成果を地区に還元出来るような刊行物を作成すべき時期に来ているのであるが、現時点での報告書刊行までの整理作業についてはやっと半ばを越えたあたりである。当町より圃場整備事業の着手が早かった近隣町村では整理作業についても先行しており、群単位での成果を一般に入手し易いような量の部数で刊行することも検討し始めなければならないであろう。

参考文献

白州町誌編纂委員会　1986　『白州町誌』　白州町
折井　敦　　1991　『上北田３遺跡・新居道上遺跡』　白州町教育委員会
杉本　充　　1993　『上北田遺跡』　白州町教育委員会
山下孝司　　1992　「苧引金覚書」『山梨県考古学協会誌』第５号山梨県考古学協会

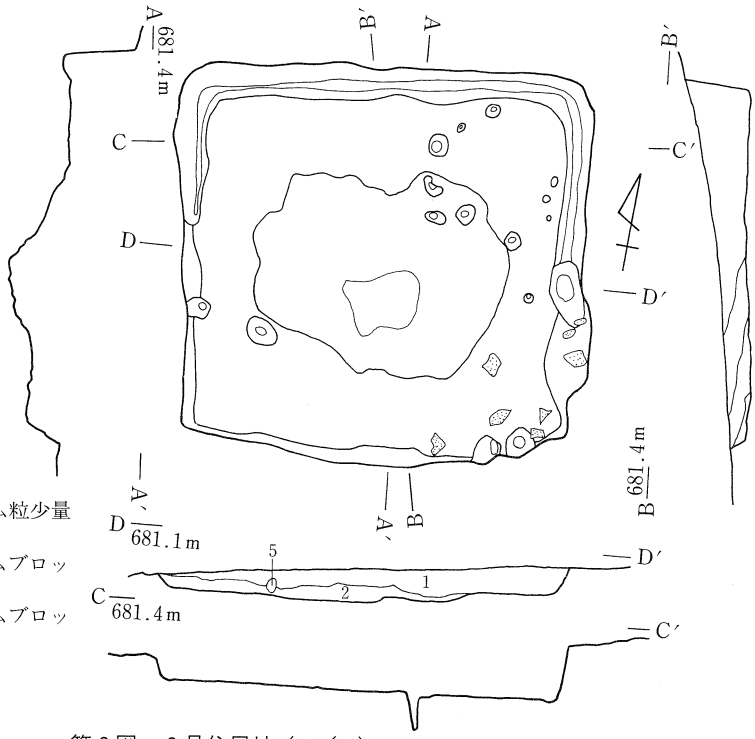


第4図　遺構配置図（1／500）



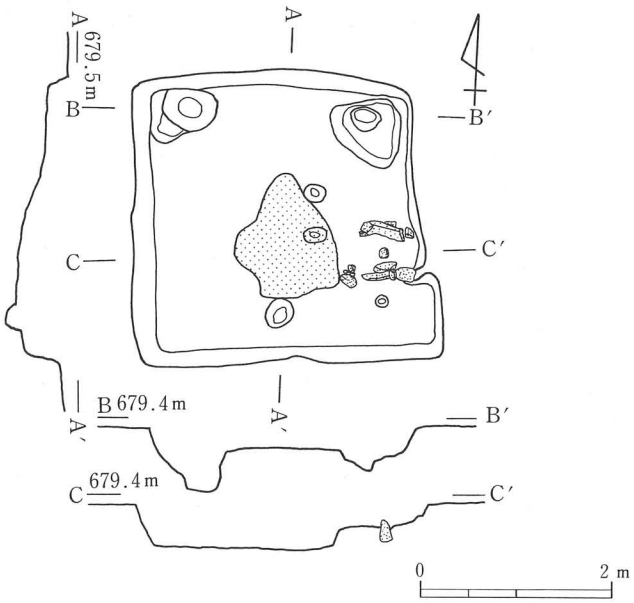
1　暗褐色土　粘性０　やや粗　ローム粒少量含む
2　暗褐色土　粘性０　やや粗　ロームブロック含む
3　明黄褐色土　粘性小　密

第５図　１号住居址（１／80）

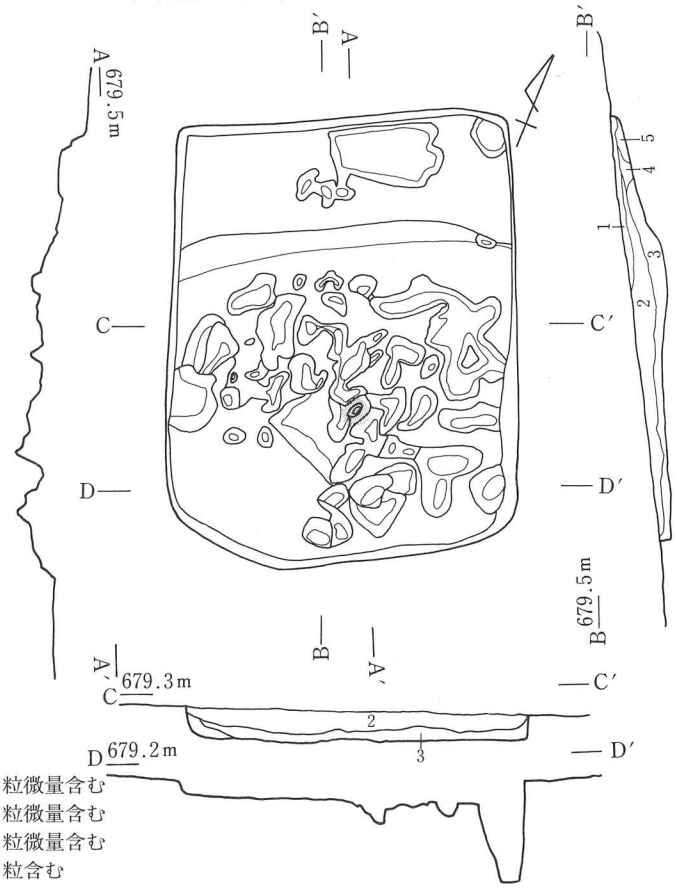


1　暗褐色土　粘性０　密　ローム粒少量含む
2　暗褐色土　粘性０　密　ロームブロック含む
3　暗褐色土　粘性０　密　ロームブロック多量含む
4　明黄褐色土　粘性小　密
5　ロームブロック

第６図　２号住居址（１／80）

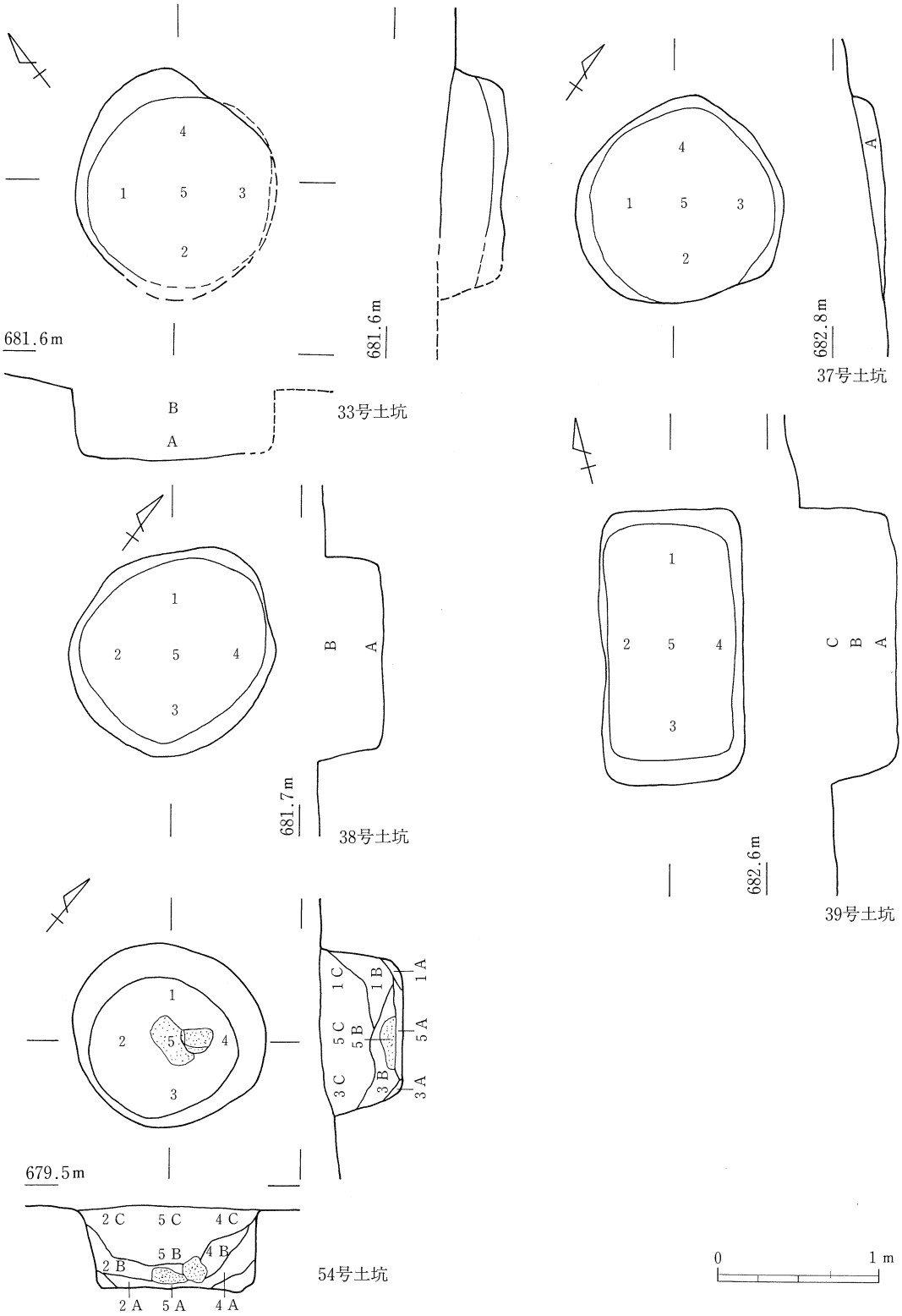


第７図　３号住居址（１／80）

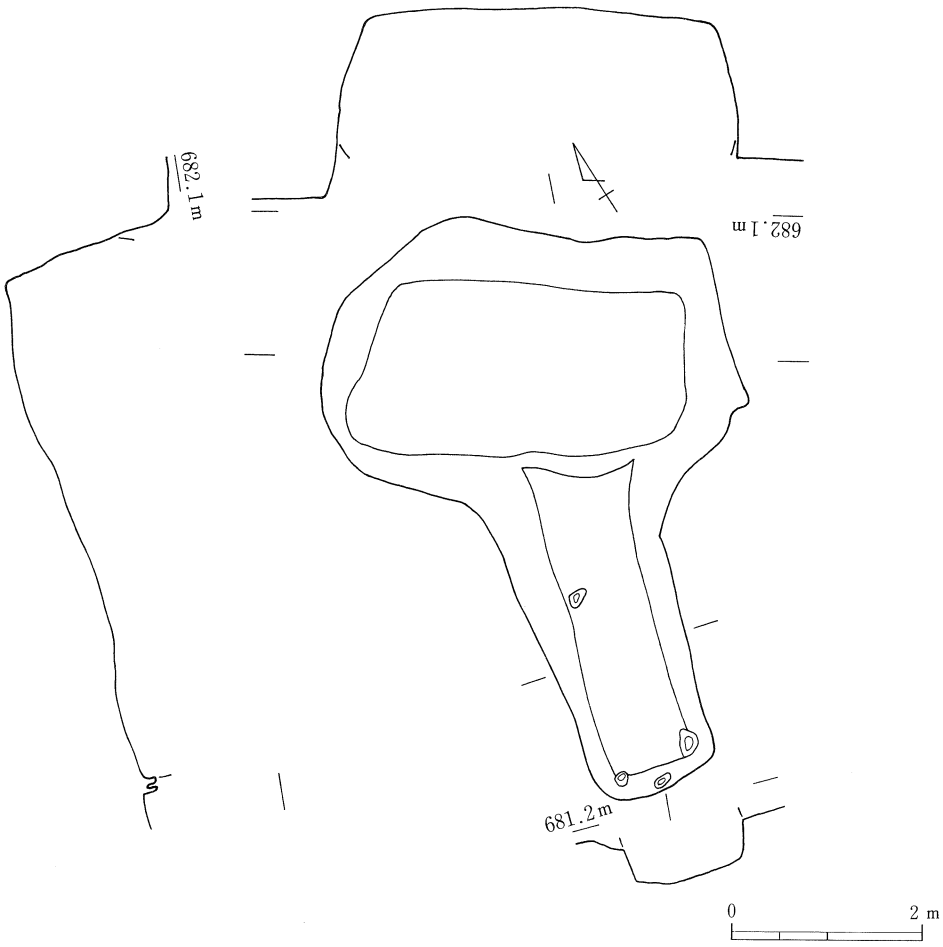


1　暗褐色土　粘性０　極めて密　ローム粒微量含む
2　黒褐色土　粘性０　極めて密　ローム粒微量含む
3　明褐色土　粘性０　極めて密　ローム粒微量含む
4　暗褐色土　粘性０　極めて密　ローム粒含む
5　明黄褐色土　粘性０　極めて密　ロームブロック含む

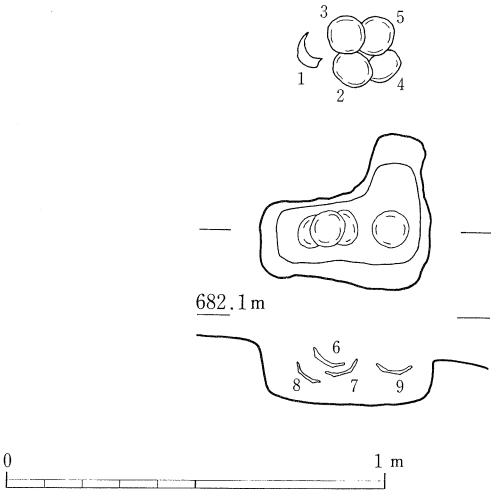
第８図　４号住居址（１／80）



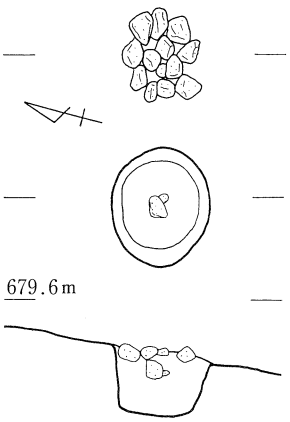
第9図　サンプル採取土坑（1／40）



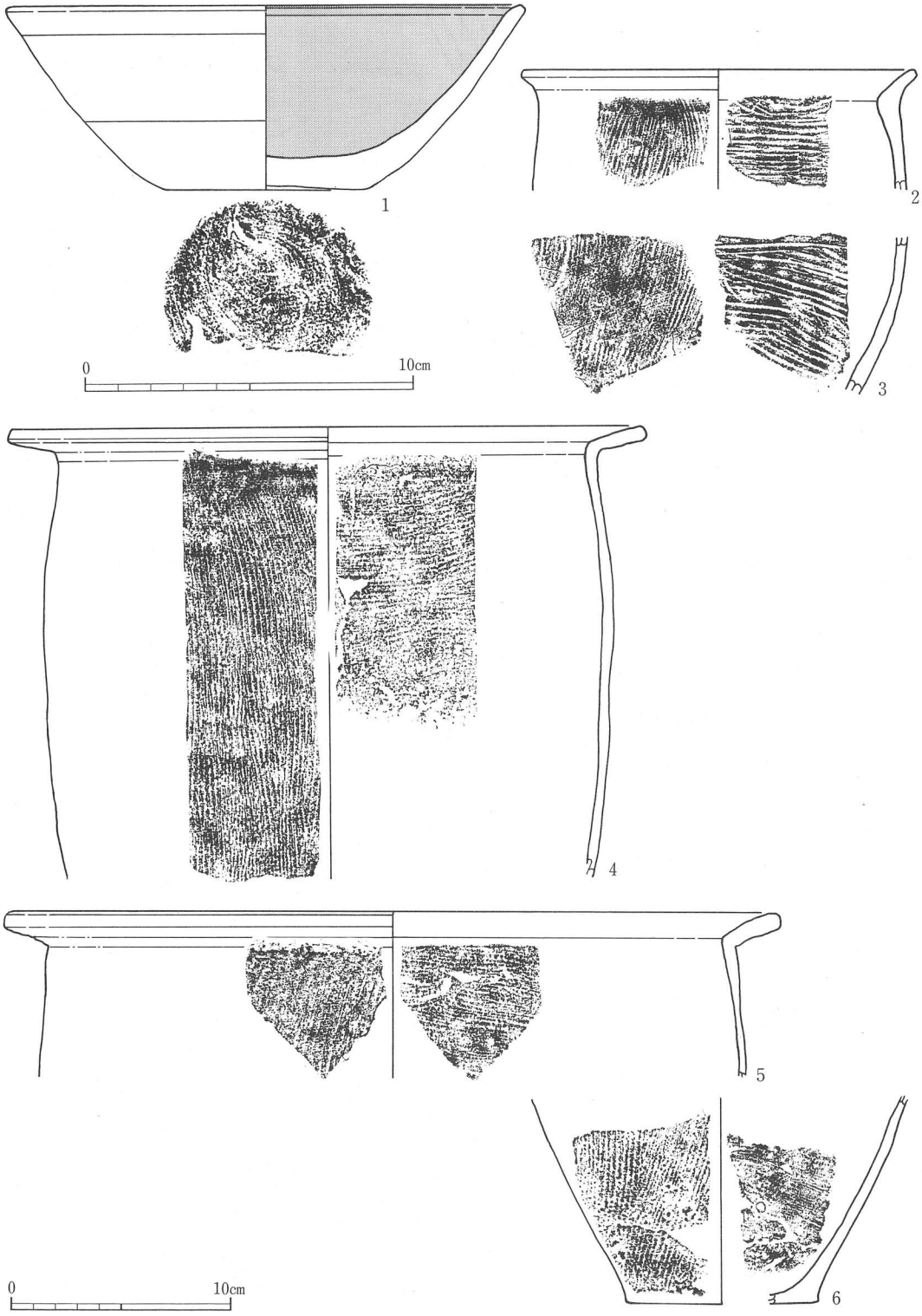
第10図　地下式坑（1／80）



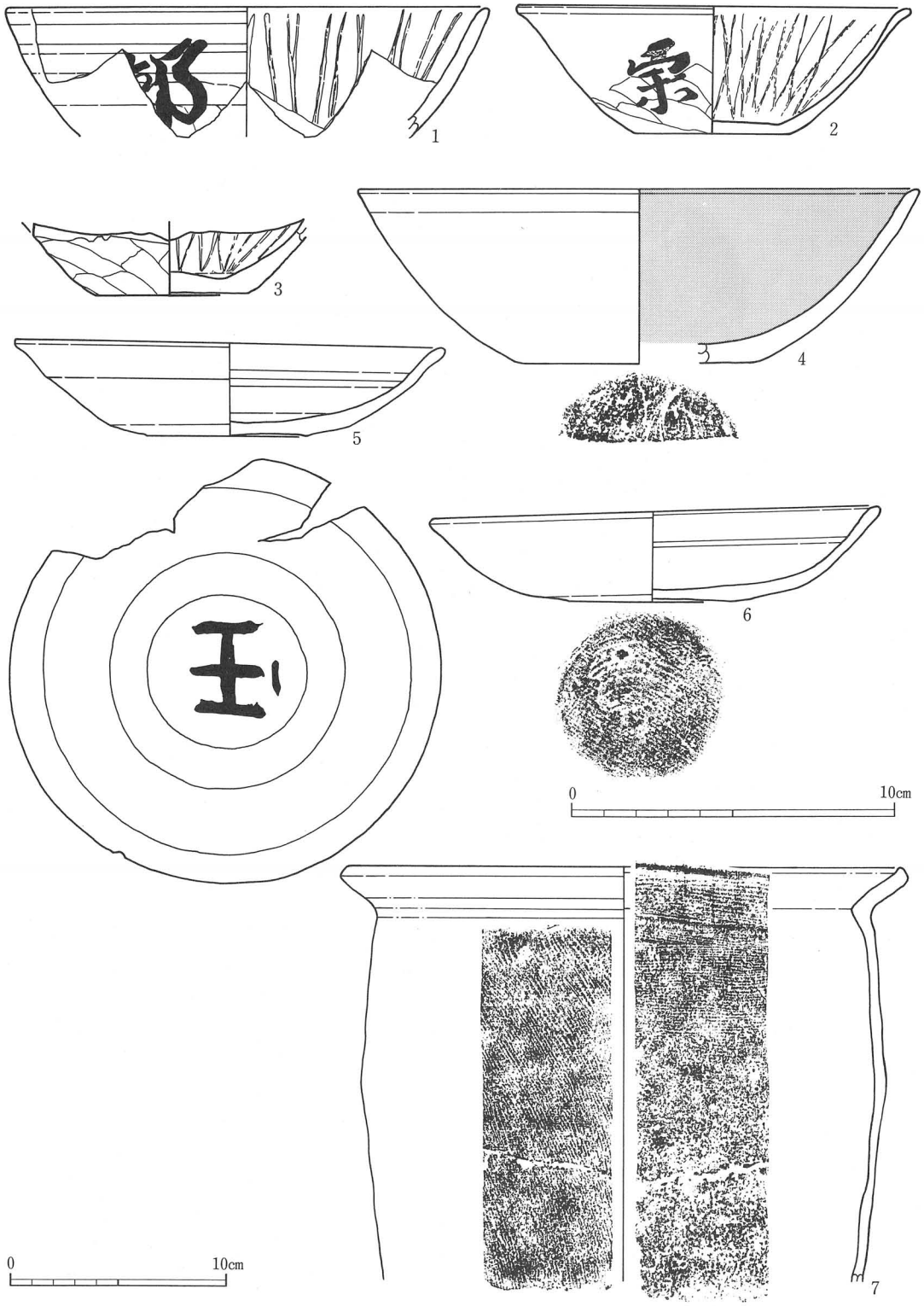
第11図　C－2区Pit－1（1／20）



第12図　集石遺構（1／20）

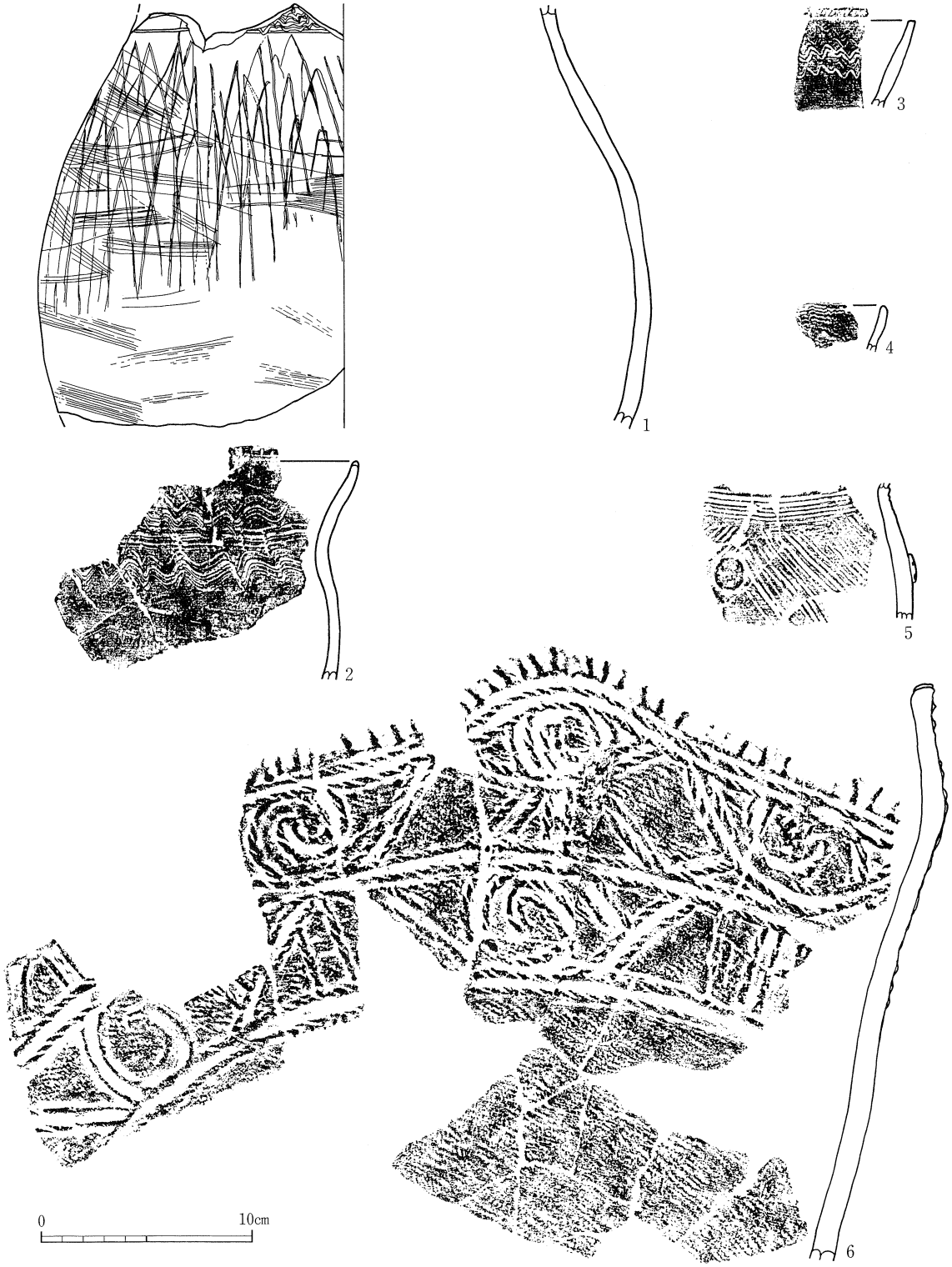


第13図　2号住居址出土遺物（1／3）1＝1／2

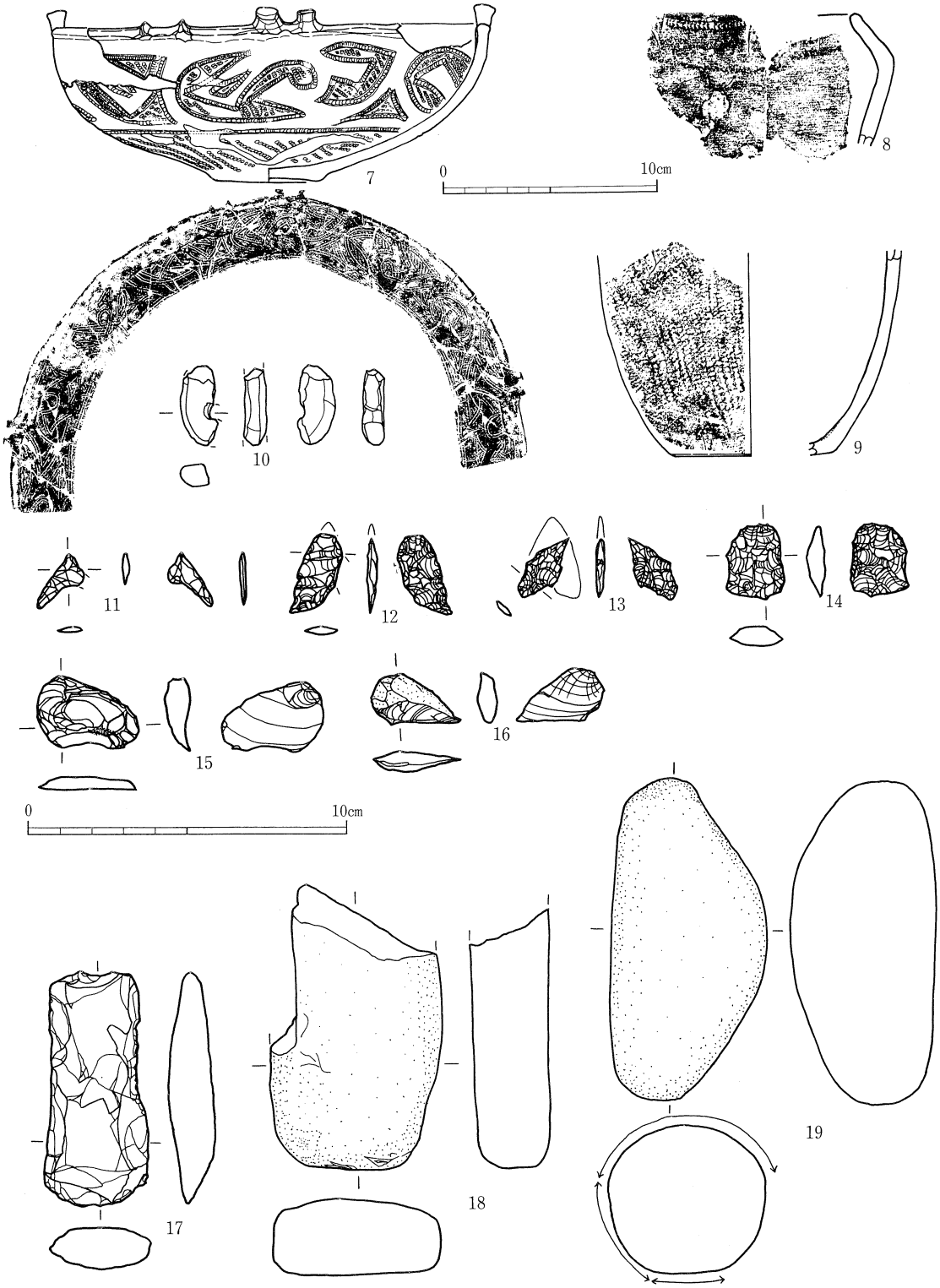


第14図　3号住居址出土遺物①（1／2）7＝1／3

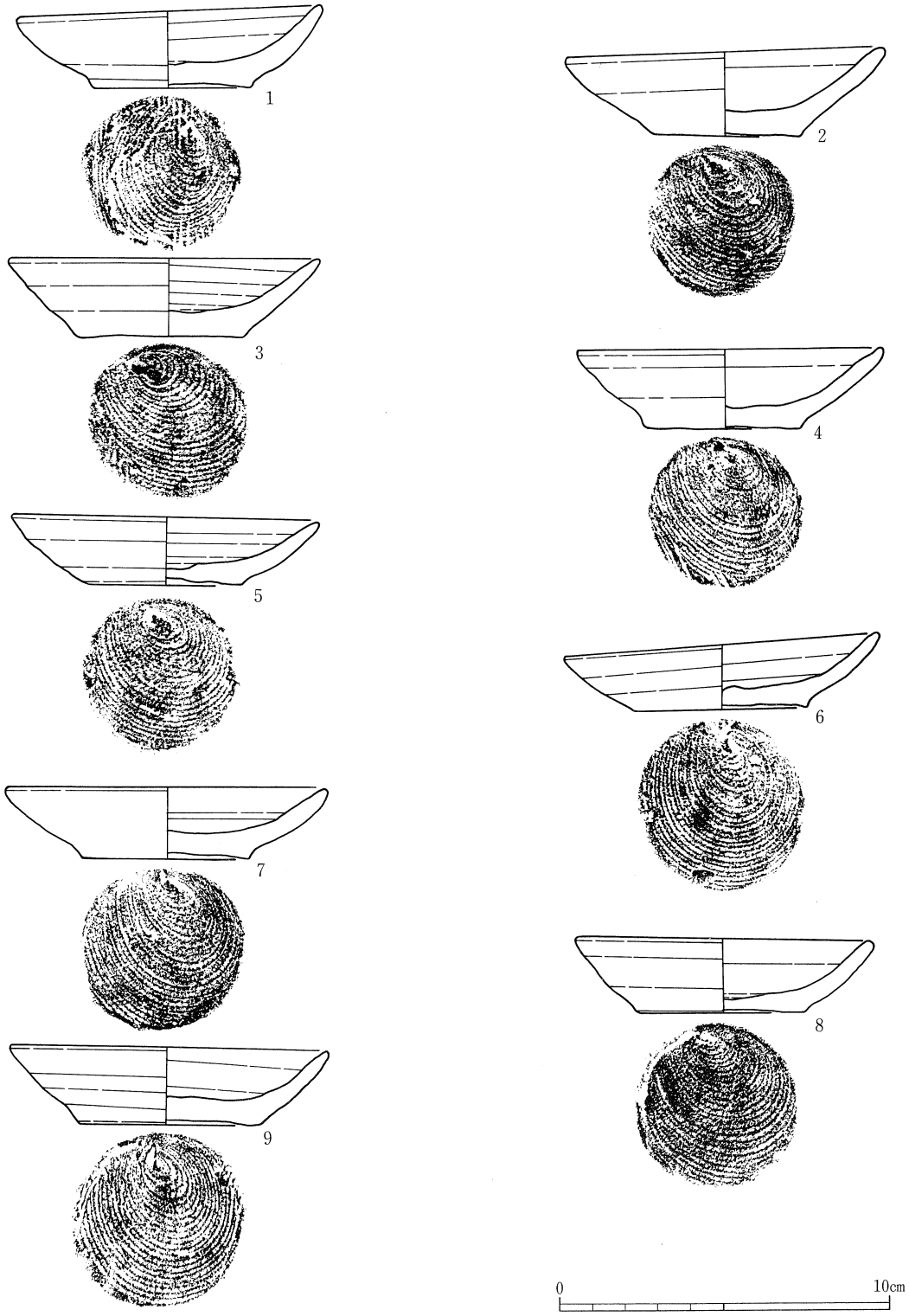
第15図　3号住居址出土遺物②（1／3）



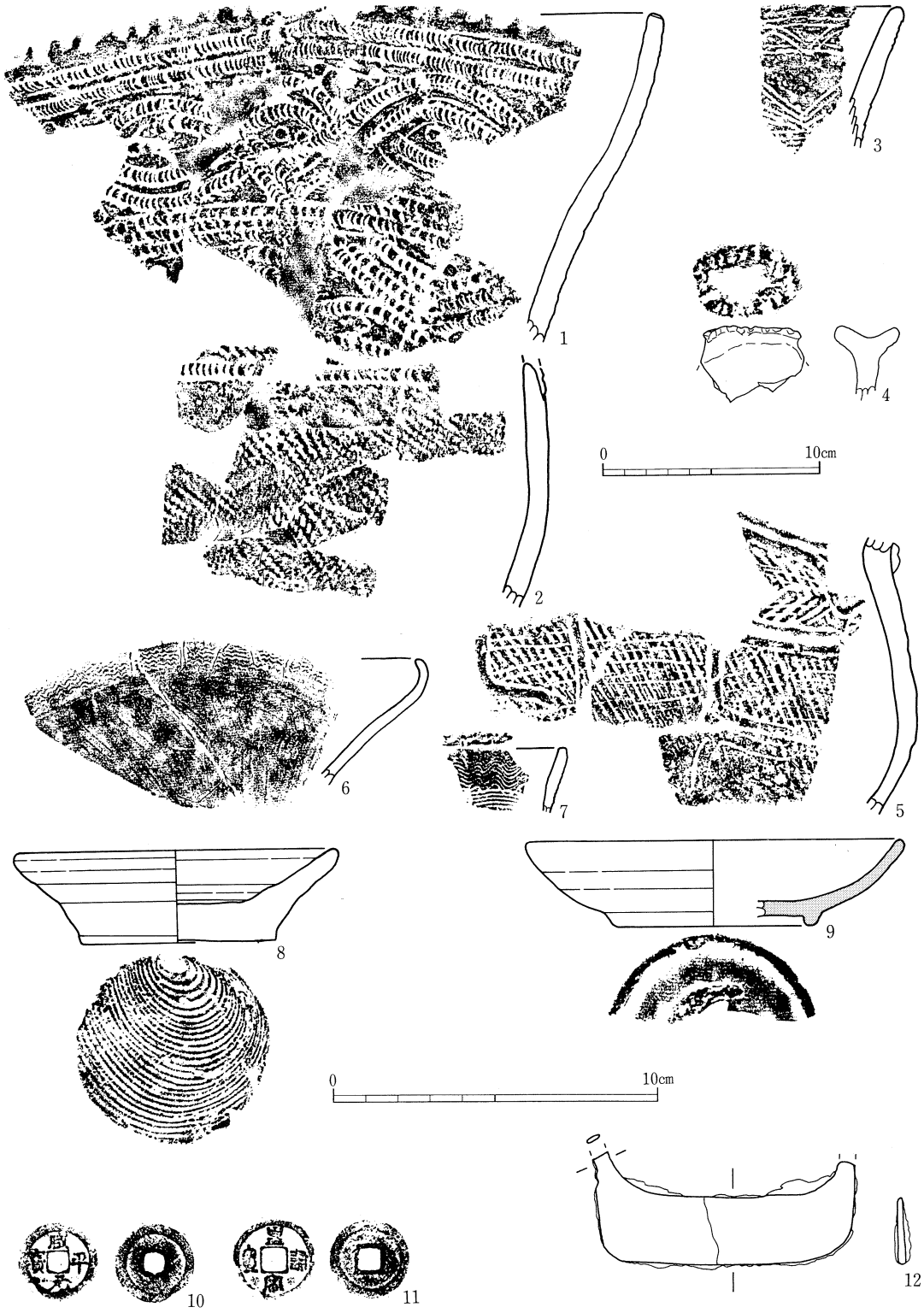
第16図　4号住居址出土遺物①（1／3）



第17図　4号住居址出土遺物②（1／3）10～16＝1／2



第18図　C－2区Pit－1出土遺物（1／2）



第19図　その他の出土遺物（1／3）8～12＝1／2

第2表　2号住居址出土遺物一覧表（第13図）

番号	種　類	器　種	法　量	胎　土	色　調	調　整・その他
1	土師器	坏	(15,8) 6,1 5,6	やや密 白色粒子含む	橙色 (7,5 YR 7/6)	内　黒色処理 底回転糸切り　1/3残
2	土師器	甕	(18,2) — —	密 白色粒子 含む	浅黄橙色 (7,5 YR 8/4)	外縦刷毛目 内横刷毛目
3	土師器	甕	— — —	密 白色粒子 含む	浅黄橙色 (7,5 YR 8/4)	外縦刷毛目 内横刷毛目
4	土師器	甕	(29,5) — —	やや密 白色粒子 雲母含む	にぶい橙色 (2,5 YR 6/4)	外縦刷毛目 内横刷毛目
5	土師器	甕	(33,6) — —	やや密 白色粒子 雲母含む	橙色 (5 YR 6/6)	外縦刷毛目 内横刷毛目
6	土師器	甕	— — (8,8)	やや密 白色粒子 雲母含む	橙色 (5 YR 6/6)	外縦刷毛目 内横刷毛目 底木葉痕

第3表　3号住居址出土遺物（第14・15図）

番号	種　類	器　種	法　量	胎　土	色　調	調　整・その他
1	土師器	坏	(15,0) — —	密 赤色粒子 白色粒子雲母	橙色 (2,5 YR 7/6)	外下半ヘラ削り　墨書 内放射状暗文
2	土師器	坏	(12,2) 4,7 4,0	密 赤色粒子含む	橙色 (2,5 YR 7/6)	外下半ヘラ削り　墨書 内放射状暗文 底ヘラ削り　3/4残
3	土師器	坏	— 4,8 —	密 赤色粒子 砂粒含む	橙色 (5 YR 6/6)	外ヘラ削り 内放射状暗文 底ヘラ削り
4	土師器	坏	(17,4) (7,4) 5,4	密 赤色粒子 白色粒子含む	橙色 (5 YR 7/6)	内黒色処理 底回転糸切り
5	土師器	皿	13,3 4,9 2,8	密 赤色粒子 砂粒含む	橙色 (5 YR 7/6)	外下半ヘラ削り 底回転ヘラ削り　墨書
6	土師器	皿	(14,0) 5,0 2,8	密 白色粒子含む	淡橙色 (5 YR 8/4)	外下半ヘラ削り 底回転糸切り後ヘラ削り
7	土師器	甕	(32,4) — —	やや密 赤色粒子 砂粒含む	にぶい橙色 (2,5 YR 6/4)	外縦刷毛目 内横刷毛目
8	土師器	甕	(25,0) — —	やや密 赤・白色粒子 砂粒雲母含む	橙色 (5 YR 7/6)	外縦刷毛目 内横刷毛目

番号	種　類	器　種	法　量	胎　　土	色　　調	調　整・その他
9	土師器	甕	(15,2) — —	やや粗 赤色粒子 砂粒雲母含む	橙色 (5 YR 6/6)	外縦刷毛目 内横刷毛目
10	土師器	甕	(15,6) — —	やや密 砂粒 雲母含む	橙色 (2,5 YR 6/6)	外縦刷毛目 内横刷毛目
11	土師器	甕	(30,0) — —	やや密 赤色粒子 砂粒含む	明赤褐色 (2,5 YR 5/6)	外縦刷毛目 内横刷毛目
12	土師器	甕	(28,2) ——	やや密 赤色粒子 雲母含む	にぶい橙色 (7,5 YR 7/4)	外縦刷毛目 内横刷毛目
13	土師器	甕	(30,5) — —	やや密 赤色粒子 砂粒雲母含む	橙色 (5 YR 6/6)	外縦刷毛目 内横刷毛目
14	土師器	甕	— — —	やや密 赤色粒子 砂粒雲母含む	にぶい橙色 (5 YR 6/4)	外縦刷毛目 内横刷毛目
15	土師器	甕	— — (9,4)	やや密 赤色粒子 砂粒雲母含む	橙色 (2,5 YR 7/6)	外縦刷毛目 内横刷毛目 底木葉痕

第4表　4号住居址出土遺物一覧表（第16・17図）

番号	種　類	器　種	法　量	胎　　土	色　　調	調　整・その他
1	弥　生 土　器	壺	— — —	密 赤色粒子 砂粒含む	にぶい橙色 (7,5 YR 7/4)	外刷毛目頸部に櫛描波状文 内刷毛目
2	弥　生 土　器	—	— — —	密 白色粒子 雲母含む	橙色 (5 YR 6/6)	外　櫛描波状文
3	弥　生 土　器	甕	— — —	密 赤色粒子 砂粒含む	橙色 (5 YR 6/6)	外　櫛描文 円形貼付文
4	弥　生 土　器	甕	— — —	密 砂粒含む	浅黄橙色 (7,5 YR 8/6)	外　櫛描波状文
5	弥　生 土　器	—	— — —	密 雲母砂粒含む	にぶい橙色 (5 YR 5/4)	外　櫛描波状文
6	縄　文 土　器	深　鉢	(30,8) — —	やや密 赤色粒子 砂粒雲母含む	明赤褐色 (5 YR 5/6)	外　浮線文
7	縄　文 土　器	浅　鉢	27,1 6,5 10,8	やや密 白・赤色粒子 砂粒雲母含む	橙色 (5 YR 5/6)	外　木葉文
8	縄　文 土　器	浅　鉢	— — —	やや密 赤・白色粒子 含む	橙色 (5 YR 7/6)	外　口縁に連続刺突

番号	種　類	器　種	法　量	胎　　土	色　　調	調　整・その他
9	縄　文 土　器	深　鉢	— 7,7 —	やや密 赤・白色粒子 砂粒含む	橙色 (2,5 YR 6/8)	外　縄文 54 号土と接合
10	土製品	耳　飾	長 — 短 — 幅 0,7	やや密 砂粒含む	暗赤褐色 (2,5 Y 3/2)	1/2 弱残
11	石　器	石　鏃	長 1,8 短 — 厚 0,2			脚部欠 頁石 0.30 g
12	石　器	石　鏃	長 — 短 — 厚 0,3			先端・脚部欠 黒曜石 0.60 g
13	石　器	石　鏃	長 — 短 — 厚 0,3			先端・脚部欠 黒曜石 0.91 g
14	石　器	楔　形 石　器	長 2,3 短 1,9 厚 0,6			黒曜石 2.48 g
15	石　器	削　器	長 3,4 短 2,2 厚 0,9			黒曜石 4.24 g
16	石　器	剥　片	長 2,8 短 1,6 厚 0,7			黒曜石 1.92 g
17	石　器	打　製 石　斧	長 11,1 短 4,9 厚 2,1			砂岩 139.7 g
18	石　器	敲　石	長 — 短 8,1 厚 3,7			1/2 残 結晶片岩 607.3 g
19	石　器	磨　石	長 15,0 短 7,3 厚 6,8			砂岩 1031.3 g

第 5 表　C－2 区Ｐｉｔ－Ｉ出土遺物一覧表（第 18 図）

番号	種　類	器　種	法　量	胎　　土	色　　調	調　整・その他
1	土師器	小　皿	9,3 4,8 2,4	密 雲母 砂粒含む	にぶい橙色 (5 YR 7/4)	外ロクロ撫で 内ロクロ撫で 底回転糸切り
2	土師器	小　皿	9,6 4,6 2,4	密 雲母 砂粒含む	にぶい橙色 (5 YR 7/4)	外ロクロ撫で 内ロクロ撫で 底回転糸切り
3	土師器	小　皿	9,4 4,9 2,5	密 雲母 砂粒含む	橙色 (7,5 YR 7/6)	外ロクロ撫で 内ロクロ撫で 底回転糸切り
4	土師器	小　皿	9,2 4,7 2,4	密 雲母 砂粒含む	橙色 (5 YR 7/6)	外ロクロ撫で 内ロクロ撫で 底回転糸切り

番号	種　類	器　種	法　量	胎　　土	色　　調	調　整・その他
5	土師器	小　皿	9,3 5,0 2,2	密 雲母 砂粒含む	淡橙色 (5 YR 8/4)	外ロクロ撫で 内ロクロ撫で 底回転糸切り
6	土師器	小　皿	9,4 5,2 1,9	密 雲母 砂粒含む	橙色 (7,5 YR 6/6)	外ロクロ撫で 内ロクロ撫で 底回転糸切り
7	土師器	小　皿	9,7 5,2 2,2	密 雲母 砂粒含む	にぶい橙色 (7,5 YR 6/4)	外ロクロ撫で 内ロクロ撫で 底回転糸切り
8	土師器	小　皿	9,0 5,1 2,5	密 雲母 砂粒含む	にぶい赤褐色 (5 YR 5/4)	外ロクロ撫で 内ロクロ撫で 底回転糸切り
9	土師器	小　皿	9,6 5,5 2,3	密 雲母 砂粒含む	にぶい橙色 (7,5 YR 6/4)	外ロクロ撫で 内ロクロ撫で 底回転糸切り

第６表　その他の出土遺物一覧表（第 19 図）

番号	種　類	器　種	法　量	胎　　土	色　　調	調　整・その他
1	縄　文 土　器	深　鉢	－ － －	やや粗 砂粒含む	橙色 (5 YR 6/6)	２と同一個体 Ｅ－３区
2	縄　文 土　器	深　鉢	－ － －	やや粗 砂粒含む	橙色 (2,5 YR 6/6)	１と同一個体 Ｅ－３区
3	縄　文 土　器	把　手	－ － －	やや密 白色粒子 砂粒繊維含む	淡橙色 (5 YR 8/3)	早期 Ｅ－５区
4	縄　文 土　器	深　鉢	－ － －	密 赤色粒子 砂粒含む	にぶい橙色 (7,5 YR 7/4)	早期 ４号住
5	縄　文 土　器	深　鉢	－ － －	やや密 砂粒含む	橙色 (2,5 YR 6/6)	Ｅ－９区
6	弥　生 土　器	甕	－ － －	やや密 雲母 砂粒含む	浅黄橙色 (7,5 YR 8/4)	外口縁に櫛描波状文 内赤彩？ Ｅ－10 区
7	弥　生 土　器	甕	－ － －	密 砂粒含む	橙色 (7,5 YR 7/6)	外口縁に櫛描波状文 １号住
8	土師質 土　器	小　皿	(10,0) 6,1 2,8	やや密 赤・白色粒子 砂粒含む	橙色 (5 YR 7/6)	底回転糸切り Ｄ－６区
9	陶　器	小　皿	(11,8) 6,0 2,8	密 白色粒子 砂粒含む	赤黒色 (7,5 YR 2/1)	鉄釉 Ｅ－８区
10	古　銭	北宋銭	径 2,4 孔 0,6 厚 0,1			咸平元宝（初鋳 998 年） 3.24 g 表採

番号	種　類	器　種	法　量	胎　　土	色　　調	調　整・その他
11	古　銭	北宋銭	径2,4 孔0,7 厚0,1			皇宋通宝（初鋳1039年） 2.40 g　篆書 表採
12	鉄　器	火打金	長8,1 短3,5 厚0,3			10.27 g 10号土坑

付編　西之久保遺跡　リン分析報告

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

西之久保遺跡（山梨県北巨摩郡白州町白順312番地に所在）では、縄文時代、古墳時代、平安時代、中世の住居址や土坑が確認されている。このうち、縄文時代前期とされる54号土坑は発掘調査時の所見から墓坑と推測されている。また、33号・37号・38号土坑は鎌倉時代頃の円形土坑、39号土坑は同時期の方形土坑である。これらの土坑の用途は、墓壙の可能性があるとされているが、詳細は不明とされている。今回は、土坑の用途・機能を自然科学的調査から検討する。

わが国のような気候が温暖多湿で、土壌の排水性が良好でかつ酸性の強い地域、特に火山灰起源の土壌が分布することの多い台地上では土壌中の有機物が分解されやすく、可溶性や水溶性の成分は土壌中を下方へ流亡することが多い。そこで、墓壙と推測されている土坑の埋積物を対象として遺体埋葬の可能性を検討する場合には、人や動物の骨に多量に含まれ、土壌中で比較的拡散しにくいリン酸量を測定し、局所的な濃集状態から人体の痕跡を定性的に推定するリン分析を用いることが多い（坂上，1984；竹迫，1981･1985；竹迫ほか，1980）。今回の分析調査でも、土坑内の遺体埋納に関する情報を得るためにリン分析を実施する。

1．試　　料

試料は、54号・33号・37号・38号・39号土坑の覆土から採取された。各遺構では、土坑覆土を層位的に採取する場所が５ヶ所設けられた。54号土坑と39号土坑では覆土上部・中部・下部から15点、33号土坑と38号土坑では覆土上部・下部から10点、37号土坑では坑底付近より５点が採取された。このような試料採取方法は、土坑覆土でのリン酸含量の分布を立体的に把握でき、濃集場所を確認する上で有効である。

また、対照試料として54号土坑検出面と遺構検出面上位の耕作土（水田、畑）の３点が採取された。これら58点全点を分析試料とした。

2．分析方法

分析は、土壌標準分析・測定法委員会編（1986）、土壌養分測定法委員会編（1981）、京都大学農学部農芸化学教室編（1957）などを参考として、以下の操作行程で行った。

試料を風乾後、軽く粉砕して2.0㎜の篩を通過させる（風乾細土試料）。風乾細土試料の水分を加熱減量法（105℃、５時間）により測定する。風乾細土試料2.00ｇをケルダールフラスコに秤と

り、はじめに硝酸（HNO_3）5 mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸（$HC10_4$）10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、蒸留水で100mlに定容して、ろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸（P_2O_5）濃度を測定する。この測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量（P_2O_5mg／g）を求める。

3．結　　果

以下に、各遺構でのリン酸含量について述べる。

(1)54号土坑

リン酸の分析結果を表1に示す。

表1　54号土坑に関するリン分析結果

試料名		リン酸含量 P_2O_5mg／g	土色・土性
対照試料			
54号土坑確認面の自然堆積層		1.94	7.5 YR 4/6 褐・L
54号土坑			
覆土上部	1－C	2.31	10 YR 2/1.5 黒～黒褐・L
	2－C	2.16	10 YR 2/3 黒褐・L
	3－C	2.42	10 YR 2/1.5 黒～黒褐・L
	4－C	2.49	10 YR 2/1.5 黒～黒褐・L
	5－C	2.39	10 YR 2/1.5 黒～黒褐・L
覆土中部	1－B	1.51	10 YR 3/3 暗褐・L
	2－B	1.46	10 YR 3/4 暗褐・L
	3－B	1.84	10 YR 2/3 黒褐・L
	4－B	1.76	10 YR 2/3 黒褐・L
	5－B	2.08	10 YR 2/3 黒褐・L
覆土下部	1－A	1.47	10 YR 3/3 暗褐・L
	2－A	1.49	10 YR 3/4 暗褐・L
	3－A	1.52	10 YR 3.5/4 暗褐～褐・L
	4－A	1.71	10 YR 3/3.5 暗褐・L
	5－A	1.87	10 YR 2/3 黒褐・L

注．(1)土　色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修，1967）による。
(2)土　性：土壌調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編，1984）の野外土性の判定法による。
L…壌土（ある程度砂を感じ、粘り気もある。砂と粘土が同じくらいに感じられる。）

対照試料とした、54号土坑確認面の自然堆積層のリン酸含量は1.94P_2O_5mg／gである。一方、54号土坑覆土の上部で2.16～2.49P_2O_5mg／g、中部で1.46～2.08P_2O_5mg／g、下部で1.47～1.87

P_2O_5mg／gである。上部のリン酸含量は中部や下部と比較してわずかに高い傾向が認められ、54号土坑検出面の値より高い。

(2)円形土坑

リン酸の分析結果を表2に示す。

表2　33号・37号・38号土坑（円形土坑）に関するリン分析結果

試料名		リン酸含量 P_2O_5mg／g	土色・土性
対照試料			
NK 2407 耕作土（水田）		6.32	2.5 Y 3/2 黒褐・L
NK 2408 耕作土（畑）		2.82	10 YR 3/3 暗褐・L
33号土坑			
覆土上部	1－B	1.95	2.5 Y 3/1.5 黒褐・L
	2－B	1.87	2.5 Y 3/1.5 黒褐・L
	3－B	2.00	2.5 Y 3/1 黒・L
	4－B	1.96	2.5 Y 3/2 黒褐・L
	5－B	1.88	2.5 Y 3/1.5 黒褐・L
覆土下部	1－A	2.37	10 YR 2.5/2 黒褐・L
	2－A	2.33	10 YR 2/2 黒褐・L
	3－A	2.27	2.5 Y 3/2 黒褐・L
	4－A	2.40	10 YR 2.5/2 黒褐・L
	5－A	2.34	10 YR 2.5/2 黒褐・L
37号土坑			
覆土	1－A	2.08	10 YR 3/3 暗褐・L
	2－A	2.08	10 YR 2/3 黒褐・L
	3－A	2.08	10 YR 3/2 黒褐・L
	4－A	2.00	10 YR 3/3 暗褐・L
	5－A	1.94	10 YR 3/2 黒褐・L
38号土坑			
覆土上部	1－B	1.97	10 YR 3/3.5 暗褐・L
	2－B	2.00	10 YR 3/3.5 暗褐・L
	3－B	2.07	10 YR 3/2 黒褐・L
	4－B	2.18	10 YR 3/2 黒褐・L
	5－B	2.01	10 YR 3/3 暗褐・L
覆土下部	1－A	2.27	10 YR 3/2 黒褐・L
	2－A	2.07	10 YR 3/2 黒褐・L
	3－A	2.20	10 YR 3/2 黒褐・L
	4－A	2.22	10 YR 3/2 黒褐・L
	5－A	2.27	10 YR 3/2 黒褐・L

・対照試料

耕作土の水田は6.32P_2O_5mg／g、耕作土の畑は2.82P_2O_5mg／gである。耕作土は、54号土坑検出面の自然堆積層より高い値を示す。

・33号土坑

上部で1.87～2.00P_2O_5mg／g、下部で2.27～2.40P_2O_5mg／gであり、上部より下部の方がやや高い傾向を示す。いずれも対照試料より低い値である。

・37号土坑

リン酸含量は1.94～2.08P_2O_5mg／gであり、対照試料より低い値である。

・38号土坑

38号土坑のリン酸含量は上部で1.97～2.18P_2O_5mg／g、下部2.07～2.27P_2O_5mg／gである。33号土坑と同様に下部の方がやや高い傾向を示す。ただし、いずれも対照試料より低い値である。

(3)方形土坑

リン酸の分析結果を表3に示す。

表3　39号土坑（方形土坑）に関するリン分析結果

試料名		リン酸含量 P_2O_5mg／g	土色・土性
39号土坑			
覆土上部	1－C	2.02	10 YR 3/3.5 暗褐・L
	2－C	2.14	10 YR 3/3.5 暗褐・L
	3－C	1.69	10 YR 3.5/4 暗褐～褐・L
	4－C	1.75	10 YR 3.5/4 暗褐～褐・L
	5－C	2.48	10 YR 3/3.5 暗褐・L
覆土中部	1－B	1.60	10 YR 3.5/4 暗褐～褐・L
	2－B	1.59	10 YR 3.5/4 暗褐～褐・L
	3－B	1.53	10 YR 3/3.5 暗褐・L
	4－B	1.90	10 YR 4/5 褐・L
	5－B	1.57	2.5 Y 4/6 オリーブ褐・L
覆土下部	1－A	1.58	10 YR 4/4 褐・L
	2－A	1.86	10 YR 3/2.5 黒～黒褐・L
	3－A	1.47	10 YR 4/6 褐・L
	4－A	1.55	10 YR 4/5 褐・L
	5－A	1.41	10 YR 4/6 褐・L

39号土坑のリン酸含量は、上部で1.75～2.48P_2O_5mg／g、中部で1.53～1.90P_2O_5mg／g、下部で1.41～1.86P_2O_5mg／gであり、上部の方がわずかに高い傾向を示す。いずれも対照試料より低い値である。

4．考　察

土壌中に本来含まれるリン酸量、いわゆる天然賦存量については、いくつかの報告事例がある（Bowen, 1983；Bolt・Bruggenwert, 1980；川崎ほか, 1991；天野ほか, 1991）。これらの事例によれば天然賦存量の上限は約3.0P_2O_5mg／g程度と推定される。また、人為的な影響を受けた既耕地（黒ボク土の平均値、川崎ほか, 1991）では5.5P_2O_5mg／gという報告例がある。また、これまでの当社における分析調査では、骨片が混在している場合で6.0P_2O_5mg／g前後の値を超えることもあり、人骨によるリン酸の富化が認められている。以下の考察では、これらの点を考慮して進める。

縄文時代の54号土坑では、覆土上部のリン酸含量が54号土坑確認面の自然堆積層の含量よりも高い傾向が認められるものの、天然賦存量よりは低い。また、坑底部は土坑覆土の中部・上部と比較して含量が低いので、遺体の痕跡を示しているとは考えにくい。そのため、土坑が墓壙である可能性は今回の分析結果からは低いと考えられ、他の用途も考える必要があろう。

円形土坑では、33号．38号土坑で覆土上部より下部の方がやや高い含量を示した。しかし、いずれの土坑でも自然賦存量や対照試料の含量を著しく超える試料は認められず、特異的にリン酸は濃集する場所は確認できなかった。そのため、土坑が埋積する際に何らかの内容物があったとは考えにくい。また、方形土坑でもリン酸が濃集する場所は認められず、内容物があったとは考えにくい。

引用文献

天野洋司・太田　健・草場　敬・中井　信（1991）中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量・農林水産省農林水産技術会議事務局編「土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発」，p.28-36.

Bowen,H.J.M.（1983）環境無機化学―元素の循環と生化学―．浅見輝男・茅野充男訳，297p.，博友社［Bowen,H.J.M.（1979）*Environmental Cemistry of Elements*］.

Bolt,G.H.・Bruggenwert,M,G,M.（1980）土壌の化学．岩田進午・三輪睿太郎・井上隆弘・陽　捷行訳，309p.，学会出版センター［Bolt,G.H. and Bruggenwert,M.G.M.（1976）*SOIL CHEMISTRY*］，P.235-236.

土壌標準分析・測定法委員会編（1986）土壌標準分析・測定法．354P.，博友社.

土壌養分測定法委員会編（1981）土壌養分分析法．440p.，養賢堂.

川崎　弘・吉田　澪・井上恒久（1991）九州地域の土壌型別蓄積リンの形態別計量．農林水産省農林水産技術会議事務局編「土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発」，149p.：p.23-27.

京都大学農学部農芸化学教室編（1957）農芸化学実験書　第1巻．411p.，産業図書.

農林省農林水産技術会議事務局監修（1967）新版標準土色帖.

ペドロジスト懇談会編（1984）土壌調査ハンドブック．156Ｐ.,博友社.

坂上寛一（1984）小山田No.15遺跡・縄文土坑と現代芋穴における全リン酸分布の比較．東京都町田市・小山田遺跡群IV，８Ｐ.,小山田遺跡調査会

竹迫　紘（1981）11号住居址内埋甕中の土壌リン酸分析．横浜市道高速２号線文化財埋蔵文化財発掘調査報告：156-158，横浜市道高速２号線文化財埋蔵文化財発掘調査団.

竹迫　紘（1985）Ｌ地区北壁土層のリン分析結果について．武蔵国分寺発掘調査報告書，Ｐ.103-105，武蔵国分寺遺跡調査会.

竹迫　紘・加藤哲郎・坂上寛一・黒部　隆（1980）神谷原遺跡への土壌科学的アプローチ．神谷原Ｉ，Ｐ.412-416，八王子市椚田遺跡調査会.

図　　版

全景（空撮）南から

図版 2

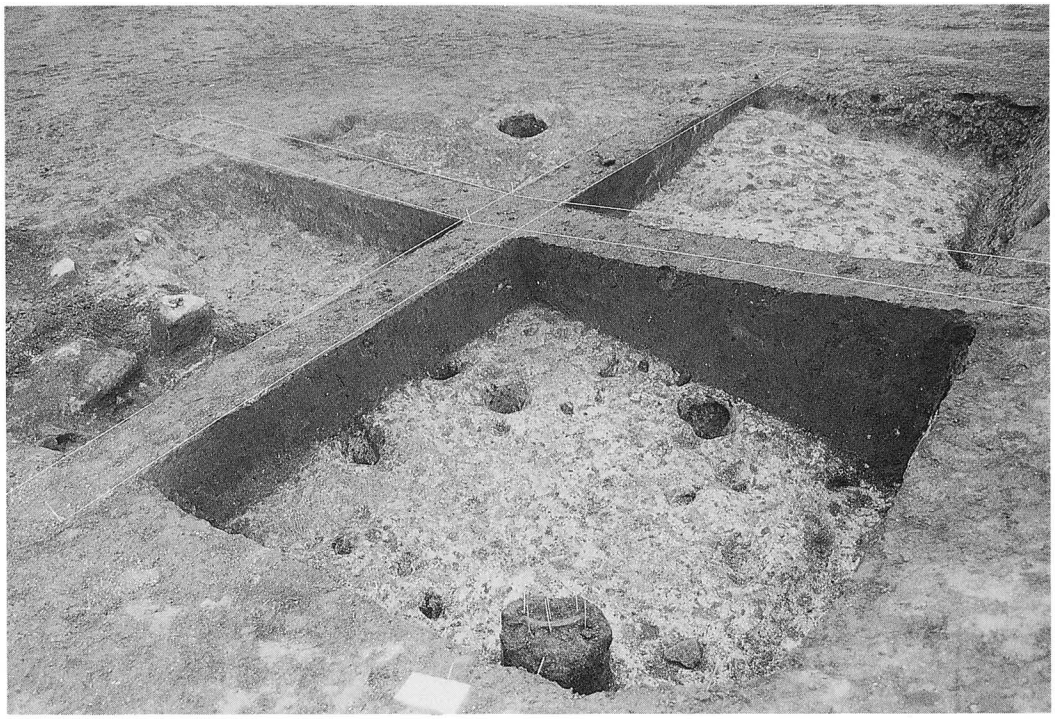
近景（調査中）東から

近景（東側）

1号（後）・2号（前）住居址

1号住居址

図版 4



2 号住居址セクション

2 号住居址

3 号住居址（東から）

3 号住居址カマド（西から）

図版 6

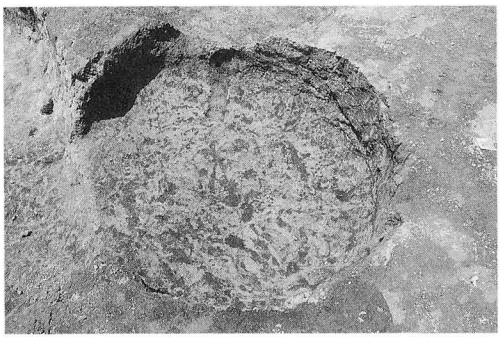
4 号住居址セクション

4 号住居址出土状態①

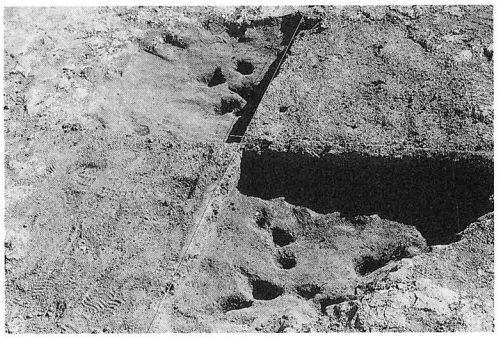
4 号住居址出土状態②

4 号住居址

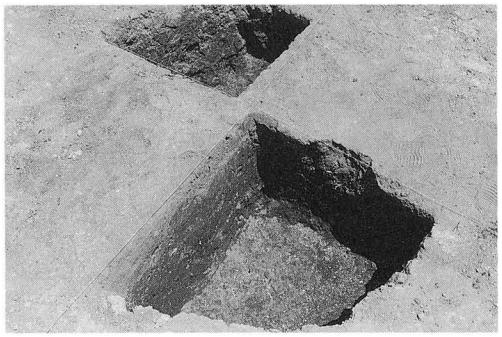
図版 8



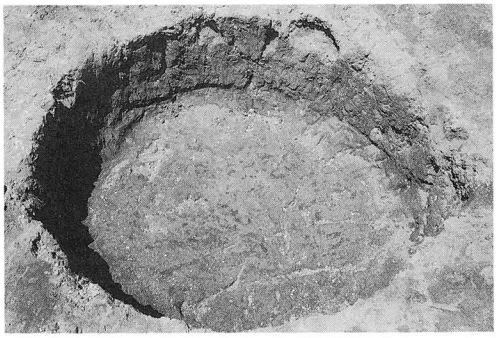
33 号 土 坑



37号土坑セクション

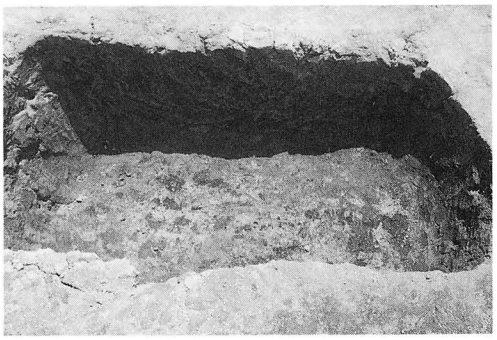


38号土坑セクション

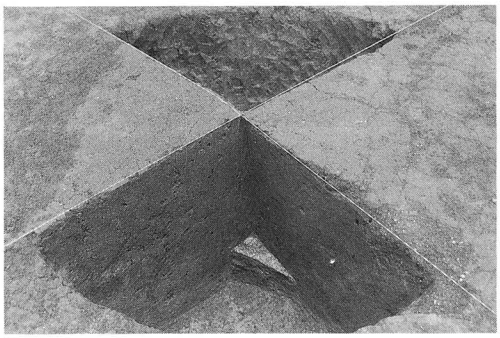


38 号 土 坑

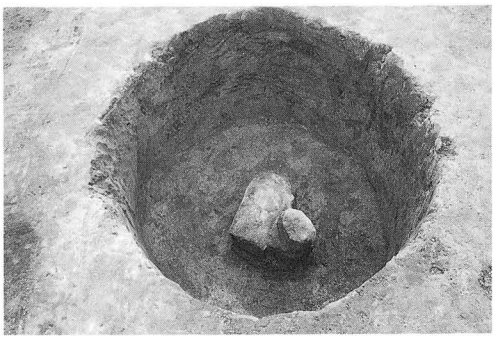
39号土坑セクション



39 号 土 坑



54号土坑セクション



54 号 土 坑

地下式坑（南から）

地下式坑（西から）

図版10

3・4号竪穴状遺構セクション

3・4号竪穴状遺構

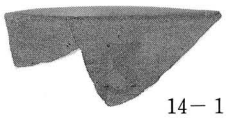
1号溝状遺構（西へ）

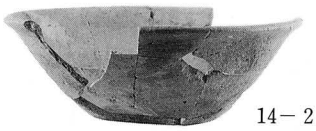
1号溝状遺構（南へ）

図版12

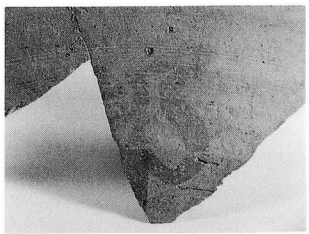
C－2区Ｐｉｔ－１（検出面）

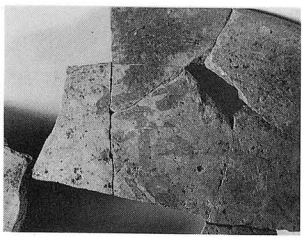
C－2区Ｐｉｔ－１（完掘）


14－1


14－2

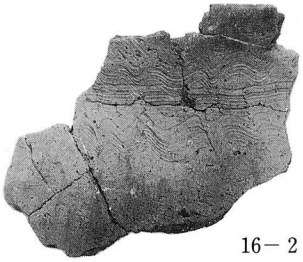
14－5

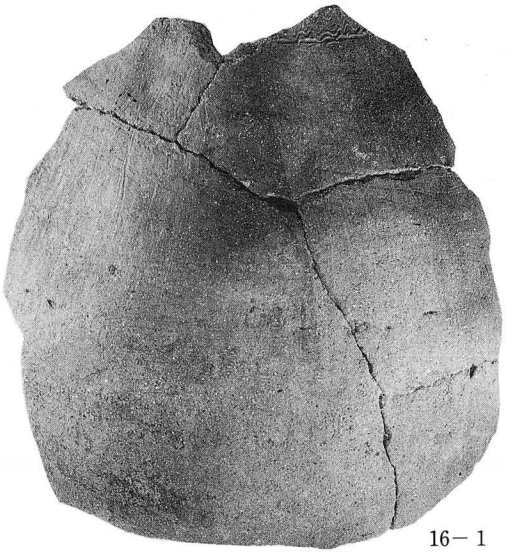




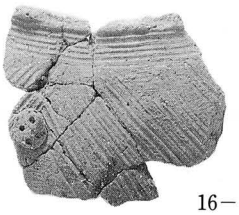
14－7

15－8


16－2


16－1

16－3

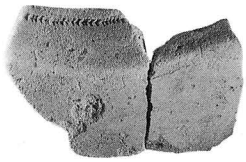

16－5

住居址出土遺物①

図版14

16－6

17－7



17－8

17－10

17－11

17－15

17－14

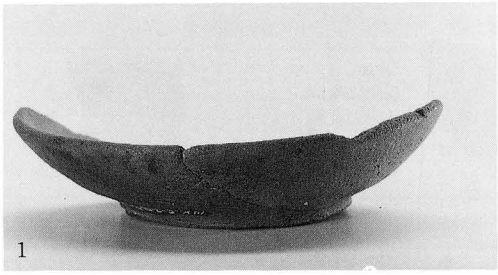
17－16

17－17

17－18

17－19

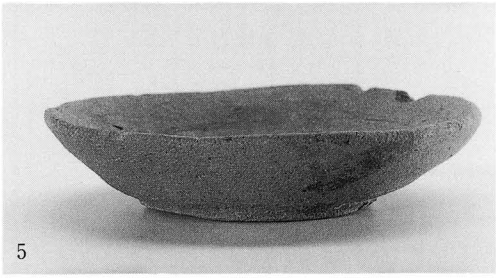
住居址出土遺物②


1

2

3

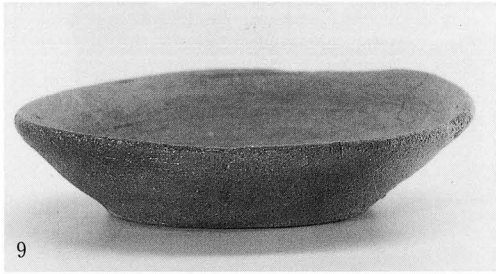
4


5

6

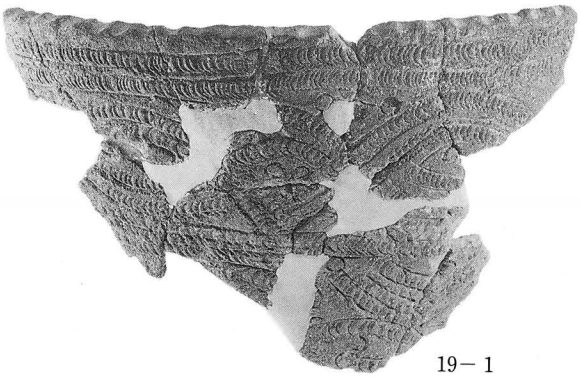
7

8


9

C－2区Ｐｉｔ－１出土遺物

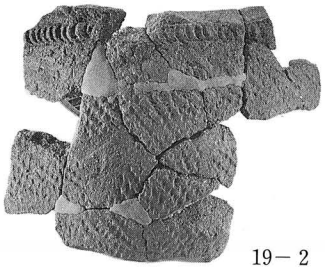
図版16



19－1

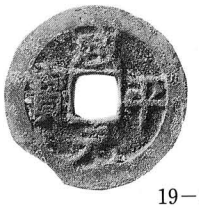
19－3

19－4

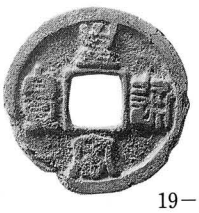


19－2

19－6



19－10



19－11

19－12

その他の出土遺物

報告書抄録

ふりがな	にしのくぼ　いせき
書名	西之久保遺跡
副書名	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	杉本　充
編集機関	白州町教育委員会
所在地	〒408-0315　山梨県北巨摩郡白州町白須312　TEL 0551-35-2800
発行年月日	1998年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m²	調査原因
西之久保遺跡 （にしのくぼいせき）	山梨県 （やまなしけん） 北巨摩郡 （きたこまぐん） 白州町 （はくしゅうちょう） 白須字西之久保 （しらすあざにしのくぼ） 2,401　他	194085		35° 47′ 30″	138° 19′ 13″	19940530 ～ 19940729	3,600	県営圃場整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西之久保遺跡	集落址	縄文時代	竪穴住居址1軒	土器	
		弥生時代	竪穴式住居址1軒	土器	
		平安時代	竪穴式住居址3軒	土師器	
		中世	地下式坑1基 土坑53基		

西之久保遺跡発掘調査報告書

1998年３月20日　印刷

1998年３月26日　発行

発行　白州町教育委員会
山梨県北巨摩郡白州町白須312
電話（0551）35-2800

印刷　ほおずき書籍株式会社
長野市柳原2133-5
電話（026）244-0235